

令和7年度 指定管理者制度モニタリング評価表（令和6年度末時点）

1 施設概要

(1) 基本的事項

施設名	尼崎市立社会体育施設	施設所管課	教育委員会事務局 スポーツ推進課
施設住所	西御園町93番地の2 ほか	竣工	S51.7(築満48年) ほか
設置目的	スポーツを愛好する市民に対するスポーツの実技指導、研修等を通じて、スポーツの推進を図るため		
主な事業内容	施設の管理・運営、維持管理業務、スポーツ教室等開催事業		
指定管理者名	公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団	指定期間	自 R4.4.1 至 R9.3.31

(2) 施設の政策的な特性に係る事項

施設分類	A(施設維持管理に加え、市の政策目的に沿った取組を、市と協働で展開していく施設)		
指定管理者に主として期待される事項	☒ 専門的なノウハウを生かした市の施策目的に資する事業実施	☐ 効率的な施設維持管理運営 ☐ 団体等の担い手としての成長	
	☐ その他()		

3 市と指定管理者が年度当初に共有した目標及び達成状況等の評価

施設目標の達成に向けた取組（指定事業の効果的な実施、自主的な取組の実施）

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）
令和6年度は立花体育館において長寿命化工事に係る3ヶ月間の長期休館を予定しており、休館のなかった令和5年度と比較すると利用者数は減少する見込みである。休館後も既存利用者に引き続き利用を続けてもらえるよう周知に努める。武庫健康ふれあい体育館の供用開始が令和7年4月からとなり、供用移行に向けたハード面の整理や、老人福祉センターとの複合施設となることに係るソフト面の整理を協力して行い、切れ目のない供用移行を実施した。アンケートでも引き続き高い利用者満足度を維持しており、効果的な運営を行ったと言える。（指標①、②）

実施結果

立花体育館にて長寿命化工事に係る3ヶ月間の休館があった影響で、昨年と比較すると全体として施設利用人数は減少したが、休館期間を除く形で比較した場合の利用人数は増加しており、休館後も利用離れを防ぐことができたといえる。武庫健康ふれあい体育館の供用開始が令和7年4月からとなり、供用移行に向けたハード面の整理や、老人福祉センターとの複合施設となることに係るソフト面の整理を協力して行い、切れ目のない供用移行を実施した。アンケートでも引き続き高い利用者満足度を維持しており、効果的な運営を行ったと言える。（指標①、②）

有効性

（参考）有効性に関する指標の設定及びその状況

指標①：利用者アンケートのうちの、接遇に関する項目についての「満足」以上の割合（単位：％）												
年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
目標	-	-	-	-	-	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	
実績	-	-	-	-	-	95.4%	98.3%	98.6%	98.5%			
達成度	-	-	-	-	-	106%	109%	110%	109%			
評価	-	-	-	-	-	◎	◎	◎	◎			
指標②：利用者アンケートのうちの、事業に関する項目についての「満足」以上の割合（単位：％）												
年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	
目標	-	-	-	-	-	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	
実績	-	-	-	-	-	95.9%	95.8%	95.6%	95.0%			
達成度	-	-	-	-	-	107%	106%	106%	106%			
評価	-	-	-	-	-	◎	◎	◎	◎			

◎目標を大きく上回った/上限値に近い実績で推移している。○目標を（概ね）達成した。△目標未達（事情あり）。×目標未達（事情なし）

①決められた指定管理料内で、市民サービスが維持・向上されているか

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）
施設が老朽化し修繕を要する箇所が多い中で、これまで以上に経費節減に努め、市民サービスの向上に直結する支出を確保していく。

実施結果及び評価

光熱水費や物価高騰の影響が大きくなる中、計画的な節電等によって光熱水費の上昇を抑えた他、修繕箇所の厳選や必要購入備品の厳選といった経費削減に努め、予算（物件費）を大きく抑えた上で質の高い運営を行った。

市民サービスが、◎大幅に向上した。○維持・向上した。△低下した（特別な事情あり）。×低下した（事情なし）

②効率性と環境に配慮した施設管理とを両立できているか

今年度の取組方針や目標（前年度末又は指定初年度当初に協議し決定）
日常業務の中でエコオフィスづくり指針に基づく取組を行うよう意識醸成に努めていく。

実施結果及び評価

グリーン購入法適合商品を優先的に購入しているほか、エコオフィスづくり指針に定める半数以上の項目について取組を行った。前年同月比で使用量の削減を達成するなど、環境に配慮しながら施設運営を行った。

◎高水準で両立している。○両立している。△両立しているとは言いえない。×環境への配慮が不足している

（参考）経費の状況（単位：円）

収入				支出			
項目	予算額	決算額	差引	項目	予算額	決算額	差引
指定管理料	248,961,000	248,961,572	572	人件費	181,727,000	179,222,856	2,504,144
				物件費	53,824,000	51,481,221	2,342,779
				光熱水費	28,144,000	24,797,748	3,346,252
収入計	248,961,000	248,961,572	572	支出計	263,695,000	255,501,825	8,193,175

効率性

2 指定期間全体を通じての目標・実績

(1) 指定管理者の選定及び指定に当たって重視された事項（選定委員会での主な意見又は市の意思決定理由）

重視された事項	スポーツ推進の中核的な役割の担い手として、子どもの体力向上や高齢者の介護予防など、本市が抱える今日的な課題を把握し、その解決に向けて、市と一体となって取組を進めていくこと。
指定管理者自身が設定した目標	1 法令を厳守し、平等かつ公平な管理運営、2 利用者ニーズや専門的知識を反映した管理運営、3 経費削減を目指した効率的・効果的な事業運営、

(2) 市と指定管理者の協議によって設定する目標

施設のありたい姿		住民が気軽に運動やスポーツを楽しむことができ、地域の健康づくり及びコミュニティづくりの場となる施設					
目標指標	指標	施設利用者数(人) (基準値: 令和3年度実績 345,060人、目標値: 令和9年度 364,000人)				達成状況の評価	
	指定期間	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	
	目標値	318,217	348,217	351,373	354,530	360,843	立花体育館で長寿命化工事に係る3ヶ月間の休館があった影響で、昨年度よりは人数が減少しているものの、目標値は大きく上回っており、高水準で推移している。
	実績値	335,781	371,598	361,697			

法令遵守

施設の管理運営や設備点検、訓練等을 適正に行っているか	適正
貸与備品等について台帳を整備し、適切に管理しているか	適正
公文書管理条例の趣旨に則り、文書を管理しているか。協議録等、必要な文書を作成しているか	適正
個人情報保護に関する法律等や情報公開に係るルールを遵守しているか	適正
公共調達基本条例、暴力団排除条例、その他の法令は遵守されているか	適正

施設の経営状況

収支及びその結果報告や変更時の報告・連絡・相談が適切・適正にされているか	適正
指定管理者自身の経営状況は健全か	適正

適正性

危機管理―事故防止の安全対策や防犯・防災対策が適切にとられているか

災害時の対応について、市との協議・共有が図られているか	適正
災害時や緊急時のマニュアルを作成し、定期的に訓練等を行っているか	適正
災害時や緊急時の対応責任者、責任体制は整備されているか	適正

履行状況―提案時及び年度当初の計画等のとおりに業務を行ったか

年度事業計画書における計画どおりに業務が遂行されたか	適正
測定時の提案内容が実施されているか	適正
業務マニュアルを定めるなど、安定的に履行できるよう取り組んでいるか	適正

関係性の構築

令和6年度は立花体育館での大規模改修の実施や、武庫健康ふれあい体育館の新築工事が完了し武庫体育館の供用が終了する等、施設利用者への影響が大きく出る事由が多く、影響が最小限となるよう一層緊密な連携を図りながら、互いに報告・連絡・相談を密にしながら取り組んだ。

協働の状況（グループAは協働の相乗効果の視点、グループBはパートナーシップを踏まえた施設管理業務の状況）

施設の維持管理運営にあたり、指定管理者が各現場の状況を共有し必要な修繕を実施した。日常修繕を超える規模の改修工事についても項目をピックアップし、市で概算設計し予算を確保した。また令和7年4月の武庫体育館から武庫健康ふれあい体育館の供用移行に向け、協力して周知を徹底し、ハード及びソフトの両側面での管理体制を整理し、大きな混乱もなく無事供用移行を果たすことができた。

指定管理者の考え成果と課題及びより良い施設維持管理に向けた市への提案事項（総括）

地区体育館にあっては、改修工事により3ヶ月休館した立花体育館を除く、他5館の貸室及びスポーツプラザについては、安全・安心を第一に考えた環境づくりとサービス提供を心掛け、前年度比約9％アップの利用者数を確保することができた。

各体育館のフロアにエアコンの設置が進められていることは、喜ばしいことではあるが、光熱費等の物価高騰が長引くなか、エアコン稼働に係る費用抑制に苦慮するところである。なお、空調設備が整備されていない大庄・園田体育館については、猛暑日における更なる熱中症予防対策を講じていく必要がある。また、老朽化に伴い施設や設備の改修工事等に伴うサービス停止期間が発生することがないよう、予防保全に努めるとともに、工事が必要となる場合については、市担当部局と連携を密にし、影響が最小限となるよう調整を含め、主体的に関わっていく。今後、新築される大庄健康ふれあい体育館については、新規オープンされた武庫健康ふれあい体育館での課題点、改善点などを市担当課にしっかりと伝え、より良い施設の完成へ向けて協力していく。サンピック尼崎の排水管、屋上防水、屋内プールのタイル等について、早急に改修が必要な状態であり、計画的に改修工事を実施していただきたい。なお、長寿命化改修工事後、修繕費が削減されたが、改修工事の際、対応いただけていない箇所の経年劣化が進んできており、故障時に指定管理者で迅速に対応できるよう修繕費の増額について、検討いただきたい。

市の考える成果と課題及びより良い施設維持管理に向けた指定管理者への提案事項（総括）

大規模改修や新施設への供用移行といったイレギュラーな状況下での施設管理となったが、アンケート結果から高い利用者満足度を維持、確保できたことが読み取れる。また、健康づくり教室の指定事業化等のソフト面での見直しも実施したが、指定管理者の協力をもって利用者への影響を最小限に事業の改善改善を行うことができた。

現在既存事業に加え、中学校部活動の地域展開へ向けた調整が本格的に行われているところであるが、指定管理者が地域展開の事務局となっていることから、指定管理事業のみならず、その他委託事業等も併せて、スポーツ施策全体のバランスをみながら今後も強固なパートナーシップの下事業を展開していく必要がある。

双方の総括を踏まえた協議の結果及び今後の取組の方向性（単年度及び指定期間中の目標を踏まえて記載）

今後も引き続き利用者の立場に立った運営を行い、利用者数の増加及び満足度の維持・向上を目指す。施設の改修工事や新施設の建築等ハード整備が続いていくが、利用者への影響が最小限となるよう連携し取り組んでいく。長寿命化工事等でも対応しきれない経年劣化箇所もあり、それについても別途予算要請し対応していく。また、部活動の地域展開や時世に合わせた事業の見直しと効率化等、パートナーとして双方で協議の上推進すべき内容が増えていることから、より密で細やかな連携体制の構築に取り組む。令和7年度より武庫健康ふれあい体育館へ供用移行しており、数年後には大庄健康ふれあい体育館への供用移行も控える中、協力して施設利用者の声を徹微に反映し、より良い施設を整備し運営できるよう努めていく。

パートナーシップ